

地域のほ場条件に見合った 心土破砕機を選定し 排水対策の徹底を

昨年の八月中下旬の台風の影響により、飼料用とうもろこしのほ場は滞水し、収穫作業が大幅に遅れたことから、排水対策の重要性が認識されました。

しかし、排水対策は必要とされていますが、効果の高いとされている心土破砕の実施は少ない状況です。

特に釧路市のほ場では、排水不良で土中に石レキが多く、サブソイラの施工に支障のあるほ場があります（写真一）。

今年三月、某TMRセンターにおいて、コーンサイレージ安



写真一 石レキの多いほ場ではサブソイラ施工は敬遠されがちである



写真二 ハーフソイラ施工後の石の持ち上がりは見られない

定確保のため、農業者向けの勉強会を行いました。具体的な排水対策としてサブソイラ施工を提案したところ、「石レキの多いほ場ではサブソイラ施工は難しい」との意見が出されました。そこで普及センターは情報を収集し、ほ場条件に見合った心土破砕機（ハーフソイラ）の実演を提案しました。

一 ハーフソイラの実演

施工したほ場は石レキが多く、三十〜四十cmの深さに硬盤層がありました。施工深は五十cmに達し、硬盤層を破砕することができました。また、心配されていた石の持ち上がりは見られませんでした（写真二）。

二 生育調査の結果

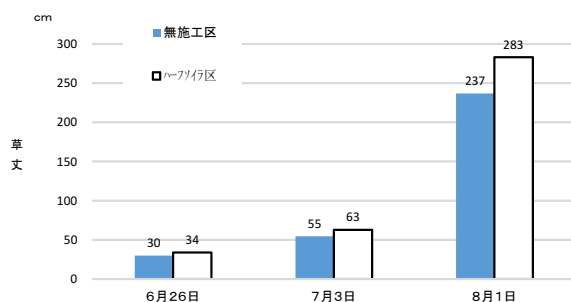
施工したほ場の水はけの悪い場所ではハーフソイラ施工区と施工しない区を設置し、根の確認と生育調査を行いました。

六月二十六日の根張りは施工区が根長で優りました。これは水の縦浸透が良くなると通気性・透水性が確保され、地温が上昇して、根域の拡大がはかられたためと思われます。

また、施工区は雄穂抽出期が二日早まり、草丈は施工区が六月以降一貫して優ったことから、収量向上が見込まれます。



図一 6月26日では、施工区は根の長さで優る



図二 生育調査結果

三 最後に

TMRセンターではハーフソイラ施工の実演が契機となり、四十ha実施されました。

今回は、試験的に春施工しましたが、作業能率は1ha/時間と高くはないため、中西部管内の一部地域でも行われている秋施工をお奨めします。

合わせて、今後、コーンサイレージの安定生産や作業性の確保のため、数年に一度の排水対策の実施にむけてほ場台帳を用いて施工計画を立ててください。

（平成二九年八月作成）